



シングルマザーと子どもの貧困を考える 地域円卓会議

シングルマザーになることで、取り巻く社会資源がどのように
変わり、子どもの貧困につながるのか

実施報告書

日 時： 2017 年 6 月 2 日（金） 18:30-21:00
場 所： 那覇市ぶんかテンプス館ホール（沖縄県那覇市牧志 3 丁目 2 番 10 号）
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄
協 賛： 宗教法人 真如苑
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成

NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】シングルマザーと子どもの貧困を考える地域円卓会



■日 時：2017年6月2日（金）18:30-21:00
■場 所：那覇市ぶんかテンプス館ホール
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：34名（NPO・市民団体、企業、行政）

■主 催：公益財団法人みらいファンド沖縄
■協 賛：宗教法人 真如苑
■協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 秋吉 晴子 氏（しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄 代表）

シングルマザーになることで、取り巻く社会資源がどのように変わり、子どもの貧困につながるのか？

国では子どもの貧困問題を緊急課題として「子どもの貧困対策に関する法律」が施行され、各自治体においても子どもの貧困対策に向けた取り組みが進められています。そうした中、子どもがいる世帯において貧困リスクが高いと言われる母子家庭については、シングルマザーと貧困がつながるイメージは共通理解としてあるものの、その具体的内容については認識が異なっている現状があります。そこで、シングルマザーに視点をしぼり、ひとり親になることで、母親と子どもを取り巻く社会資源がどのように変化していくのか、そのことが子どもの貧困にどのようにつながっていくのか、について一つひとつ事実を確認しながら、課題を共有する場（円卓会議）を持ちます。市民のみならず関係者、専門家の方々と一緒に、考えていきたいと思います。

センターメンバー



秋吉 晴子
しんぐるまざあ
ず・ふぉーらむ
沖縄代表



安里 長従
八重の森事ム所
司法書士



斉藤 里菜
精神科医



国仲 瞬
株式会社
がちゆん
代表取締役社長



福里 直美
那覇市ファミリ
ーサポートセン
ター
コーディネーター



崎原 美奈子
沖縄県青少年・
子ども家庭課
班長



黒島 美奈子
沖縄タイムス社
記者

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- シングルマザーの現状
 - ・ 保育園、職場、家の往復で、他のお母さん方とコミュニケーションとる時間がまったくなく、ネットワークをつくる時間がなかった。
 - ・ 「母子家庭だからうまくいかない」という声に敏感になった。
 - ・ 人を信じられなくなった。
 - ・ 助けてと言いたい、誰にも助けを求められなくなった。
 - ・ 社会的に孤立している。世間話をする余裕がなく、孤立が追い打ちをかける。
- しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄の活動。那覇市の若狭公民館、宜野湾市の男女共同参画支援センター ふくふく、人材育成交流センターめぶきでシングルマザーのおしゃべり会を実施。2年に1回、シングルマザーを支援する養成講座開催。
- シングルマザーの定義は、母子及び父子並びに寡婦福祉法第六条「この法律において『配偶者のない女子』とは、配偶者（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）と死別した女子であつて、現に婚姻をしていないもの及びこれに準ずる次に掲げる女子をいう」とある。
- 母子世帯になった理由（沖縄）→1位 離婚 79.3%、2位 未婚 12.2%、3位 死別 4.9%。未婚が 12.2%と全国の 7.8%と比べて多い。
- 沖縄の母子世帯約 30,000 世帯（全国平均の 2 倍）の内 60%が母子のみの世帯（祖父母と暮らしていない）。親と同居は 22%。
- 父子世帯は母子世帯より親との同居率が高い。
- 母子世帯になったときの年齢が 20 歳未満→沖縄 2.8 %（全国 1.6%）。若年出産も全国に比べて多い。
- ひとり親世帯になった直後に困ったこと（沖縄）→母子・父子世帯ともに、1位は生活費。
- ひとり親世帯と二人親世帯の収入の格差は非常に大きい。
- 沖縄は全国に比べて収入における男女間の格差は低い（男性側の収入が低い）。
- 母子世帯の就労率→沖縄 87.5%（全国 80%）。沖縄は全国に比べ就業率が高い。
- 母子世帯就労形態→正規職員 39.4%（全国 39.4%）、パートアルバイト 47.1%（全国 47.4%）。
- 沖縄の母子世帯の正規職員平均就労収入 209 万円、パートアルバイトは 124 万円。正規雇用と非正規の差は大きい。
- さまざまな調査で、母子世帯が生活費で困窮しているのは明らかだが、生活保護を受給していない世帯が多い。生活保護受給世帯（全国）の内、母子世帯は 6%。母子世帯の中で生活保護を受給している世帯をみても 14%しかいない。理由として、制度の要件に合わない、車の保有できなくなる、受給することへの躊躇等がある。
- 母子世帯の養育費の受給→沖縄 12%（全国 20%）。最初の 1 回は受けたがその後受給がない方が多い。
- 面会交流（離婚後の交流）の実施状況→沖縄、全国ともに 30%ほど。養育費は受け取れていないが、面会交流を行っている世帯が多い。
- 非婚に寡婦控除が適用されない。所得税法で定められている「寡婦（寡夫）」の規定に非婚（婚姻歴のないひとり親家庭）が含まれないため、非婚世帯は、寡婦控除が受けられず、同じ収入のひとり親家庭（死別・離婚）より税金が高くなり福祉サービスから除外されてしまう。
- 沖縄県内では 26 自治体が保育料のみ、ひとり親世帯に対して寡婦控除をみなし適用している。
- 過去 1 年間に食料を買えなかった経験があるひとり親世帯 45.6%（沖縄県高校生調査）。
- 那覇市ファミリーサポートセンターの状況
 - ・ 那覇市ファミリーサポートセンター（以下、ファミサポ）は、那覇市社会福祉協議会が那覇市から受託している。依頼があった家庭にサポーターを派遣。サポートの依頼内容は子どもに関することのみ。保育園の送迎、一時預かり等。
 - ・ 那覇市のファミサポの依頼会員 2,516 件。内ひとり親家庭は 287 件（感覚として 9 割が母子）。
 - ・ 平成 28 年度利用件数 9,287 件、内ひとり親家庭 1,037 件。
 - ・ ひとり親家庭等にファミサポのサポート券を渡している。サポート券の申請件数は、ひとり親世帯数 287 件の内 69 件。
 - ・ サポート券 948 枚発行。実際に使われた券が 526 枚。サポート券の使用状況は低い。那覇市社協としては 800 枚の利用を想定している。
- 沖縄県では、平成 24 年から母子家庭等生活支援モデル事業を実施している。県内 3 ヶ所に、母子生活支援施設（母子保護する施設）があるが、この施設に入れない母子家庭を中心に、民間アパートの借り上げ、生活支援、就労支援、子育て支援、学習支援も合わせてトータルの支援を行っている。自立に向けての総合的な支援。

事例の提供

- 神奈川県川崎市では保育料以外の 34 事業で寡婦に対してみなし適用している。
- ずっと音信不通だった父親が生活保護を受けることになり、行政から子どもに生活の面倒をみるように連絡がきた。

評価の提供

- 生活保護の捕捉率、日本は 2 割、さらに母子世帯は低いのでは。
- ひとり親世帯は社会資源につなぐにくい。
- 日本のシングルマザーの政策の進展は微々たるもの。
- 妊娠した後会社を辞めないといけない状況や小さな子どもがいると就労を断られてしまう、養育費は支払われない、保育園には入れない等、母子で孤立している状況は 20 年前と変わらない。
- 日本は他の先進国の状況と比べると、子どもを育てる公的支援が少ない。
- 日本は産業発展していく過程で、父親が働きに出るしくみになり、残った女性たちが子どもをみるという流れになった。そのような仕組みを積極的につくってきた国。
- 公的サービスが家族単位になっている。家族 4 人形態から外れてしまう（単身高齢者、ひとり親家庭等）と、制度から外れてしまうことが近代化以降続いている。
- 民法も 110 年くらい前にできた法律。この法律が制度の根本になっているのが問題。

視点の提供

- シングルマザーの問題に取り組むとすれば、母子及び父子並びに寡婦福祉法の定義（死別、離別）を改正させる必要がある。
- みなし寡婦控除は、市町村条例でできる。
- 低賃金層が養育費払えない等いろいろな問題を誘発している。
- 働く母を支える居場所づくりを支援していく部分と、所得賃金を上げる経済政策、産業振興政策の両輪が必要。
- 子育て支援は、困窮に関わりなく使えるユニバーサルな仕組み。弱い人をたたくという悪循環をなくすためには、ユニバーサルな観点が必要。
- ファミサポの事業に関して、本当に困窮している人が利用しているのかという議論は危険。
- 子育ては、困窮であろうがなかろうが一定程度の選択肢をもてる状態であるべき。選択肢を奪われている状態を取り除いて選択できる状態にする社会をつくってほしい。
- シングルマザーが羽を休める場所をつくる。
- シングルマザーは命がけで子育てをしているので「お子さんが体調くずされたみたいだけどその後体調はいかがですか？」等の声かけがあると、自分の子どもの健康を気にかけてくれていると勇気づけられる。応援してくれているのかなと思ってこの人に話してようかなと思うかもしれない。
- 会話の中で「結婚していたほうがいよね」「父性が必ず必要」等と言われると、結婚していない自分はどうかと悩んでいるのか、私の子どもはどう見られているのかと考えてしまう。自分の価値判断が入っている発言がないか、シングルマザーと接するときは気を付けてもらいたい。
- 私たちひとりひとりが、親が子どもを育てるべき、母親は子どもを慈しむべきだと思っており、女性は家事をすべきだと思っている。それが結果的に、個人として生きづらい制度をつくっており、女性、母親、シングルマザーである前に「ひとりの人間」として生きる自由を奪っている可能性がある。
- 一人ひとりが考えを改める必要がある。「自分が生きるために、自分と同じように隣の人が健やかに生きるためにはどうしたらよいか」を考えるとところからはじめたほうがよい。そういった考え方の総合が今の日本の制度につながっている。
- 今の地域が子どもと母親をどう支えるのか、今の資源でどうやってできるかを考えていけばいいのでは。

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- シングルマザー世帯が貧困に陥りやすい構造と、その課題解決が子どもの貧困問題解決の最優先課題であることとを共有しよう
- シングルマザー世帯の様々な困りごと（社会的孤立、選択肢に乏しい子育て環境、基本的人権が担保されていない貧困状態等）に丁寧な対応が必要
- シングルマザーが生きやすい社会は他の人々にも生きやすい社会である。ユニバーサルな視点での制度設計が求められている

■参加者によるサブセッション

「シングルマザーの課題と子どもの貧困の両方に効く、事業・施策のアイデアを考える」

(原文のまま)

○シングルマザーが羽を休める居場所づくり

○子どもを社会が育てる仕組み。親をカバーできる場所（居場所づくり、ご近所さん）

↓

- ・公の仕組みとして準備する。地域の子育ても出発は公
- ・企業、NPO、団体の力も使う
- ・今風の子育ての資源

○空き家のあっせん

↓

公営住宅にみなして、低額で貸し出しできる制度が必要（現在のモデル事業をどのように次につなげるか）

○子ども食堂、学童でもいいので子どもの料理教室。子どもがお料理をする。

- 一品お料理増える
- お母さんがらく
- 一緒にやる喜び
- 特に男の子→結婚→料理が好きな男性

○公民館（老人会、青年会、子ども会）

地域でつながり孤立をなくす

○シェアハウス版母子寮

○情報共有の仕組みに課題がある。

└ 本質的課題、既存の課題

- ・シングルマザー家庭が必ず申請するタイミングでリーフレットをお渡しする

○ユニバーサル的な支援！

○シングルマザーの課題×子どもの貧困

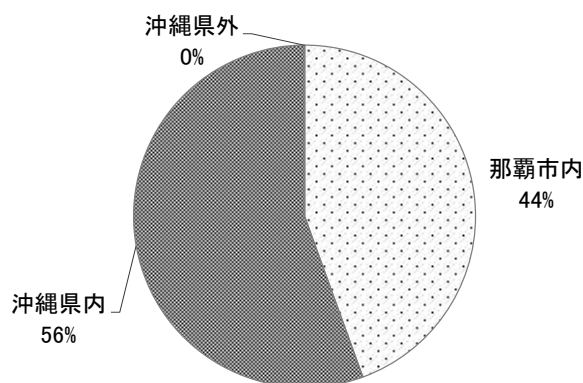
- ・課題→100年前からの法律
 - 現場と行政情報のかい離
 - 制度（法律、条例）Why？なぜ変えられない。課題の共有がされていない
- ・解決のアイデア
 - └ 一人親の課題→孤立
 - ネットでのつながり。高齢者施設とのからみをつくる
 - └ 学校現場での調査
 - └ 保育所中心としての有効利用
 - 社会保育をしてくい！

シングルマザーと子どもの貧困を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

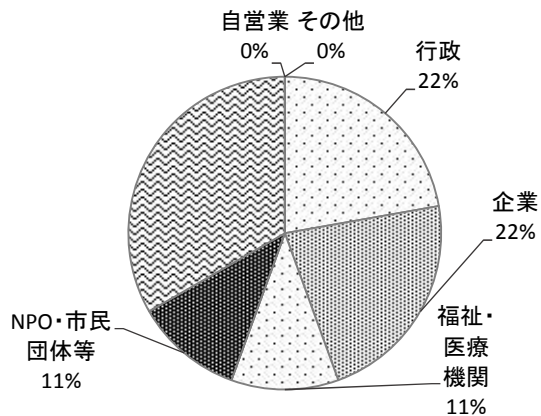
◆概要

- ・日 時：2017年6月2日（金）18:30～21:00
- ・場 所：那覇市ぶんかテンブス館ホール
- ・着席者：9名（司会、記録含む）
- ・参加者：34名（アンケート回収9名、回収率26%）

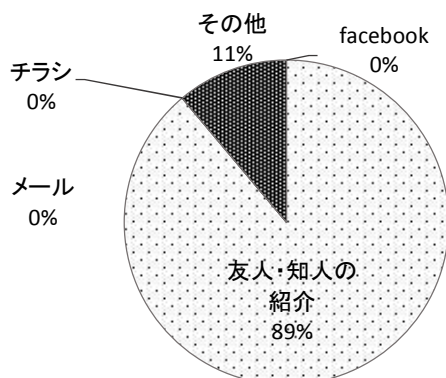
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.6（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. ふつう	2. あまり満足していない	1. 不満足
6名	2名	1名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・勉強会から深く問題の根っこと現状がわかりました。解決が難しい分色んなアプローチの仕方を学びました。
- ・シングルマザー当事者の話がきけたのは今後の考え方に大きな影響を与えることだと思いました。
- ・“今の資源で考える”これを軸にいろいろアイデアを出していけたらいいなと思いました。
- ・ひとり親の生の声が聴けてとてもよかったです。
- ・参加者ひとりひとりが問題意識を持ってると感じました。会そのものがひとつになっている様な気がしてとても良かったです。

（4. 概ね満足）

- ・話はとてもよかったですのですが、グループで話し合ったときにもっと話をしたかったです。
- ・質の高い登壇者、内容なので、時間が気になりませんでした。もっと聞きたいと思いました。

（3. ふつう）

- ・情報を提供いただく場として大変有意義でしたが、問題提起に関する本質を掘る（探る）時間をもっとほしかったなあという印象でした。ただ、その“もっと”という気持ちを引き出していただけだったので自分で持ち帰り社内、家族と話し、行動へつなげたいと思いました。

6. 印象に残ったこと

- ・シングルマザーが羽を休める居場所づくり。自分の価値判断で物事をみないこと。ユニバーサルな制度設計。
- ・地域で子どもを見守ること！
- ・ファミリーサポートの取組みはいいなと思った。

(写真) 会場の様子



① シングルマザーと子どもの貧困を考える

地域円卓会議

2017.6.2 (金)
18:30 ~ 21:00
@那覇市ぶんかテラス館

シングルマザーになることで、取りまく社会資源がどのように変わり、子どもの貧困につながるのか。

司会 秋吉 安里
黒島 崎原 福里 国仲 斉藤

主催 おひろ子沖縄 協賛 真知苑

② 論点提供

秋吉 崎子
19年前沖縄へ
シングルマザーに
高2の娘
会社員

東京の（ん）
会員
沖縄はシングル
マザーの出現率
1番高いんだよ

同じような人が
いるはず

保育園
職場
家
他の親とコネ
リレーションとると
全く変わります

若しくは
ふくふく）宜野
ぬふき）宜野

おしゃべり会
子どものいない
人にて自分のこと
を語ろう

支援者を
養成する
講座
(24回1回)

③ 母子家庭

定義
● 死別
● 離婚
● 婚姻はしない
(未婚)

理由 (80.8)
離婚 79.3%
未婚 12.2% (98)
死別 4.9% (95)
若年出産 2.8%

収入
ひとり親世帯と
二人親世帯の
収入格差が大きい

就労率
87.5% (全国80%)
正 39.4% パート 47.1%
正も働くための
就労支援が必要

困ったこと
① 生活費 83
② 仕事 39
③ 子育て 33
④ 借金の返済 21

沖縄の母子
30,000世帯
(5,000世帯)
5.46% (全国2倍)
(出現率)
親と同居 22%
60%が母子のみ

④ 生活保障

母子世帯 6%
母子
要件に車があることで
申請に引っかか
ホソキ 2-3割
(一般)

養育費の受給
全国2割
沖縄1.2割
非婚に寄与する
が適用されない問題
おなじ適用
ウー自治体 (保育料のみ)

沖縄県高校生調査
カワリ 食料がなくなった
46.6% (ひとり親)
ひとり親世帯は
社会資源に乏しい
リソース

安里長延
H14 ~ 9年連続
教育の問題で悩んでた
(がし、構造の問題は
9年後の問題
沖縄はなぜ
貧困率が
高いのか

カフ、定義
の見直しが必要
おなじカフ控除
(市町村の条例で
できる)
川崎市(事例)
自治体でも見直し
ことはある
(公営住宅入居標準人)
所得と上げる政策
がなくて前に
すすまない

⑤ 斉藤里菜

当事者として
2-4歳の子供と
離婚 (研修生)
保育園では
カバーできない
ベビースター
貼っ紙して募集
した
給料はシフト代
でなくなった
ひとり子育て
経済的
「シングルマザーだから」
という言葉に悩まされた

多くの
シングルマザー
は全職の
時間がない

おしゃべり会
に行き
7年が経ち
社会的に
コソコソ
思いつ
てきた

⑥ 国仲崎

小1のとき離婚 一妹1歳
母親 無職
沖縄市
姓「国仲」 母親が姓を
もてた
父が生活保護受給
シングルマザー 家庭の
子どもへの接し方

⑦ 福里直美

障がい児
送り迎え
（新郡）
安謝地区
小禄地区
多
支援者不足
(サポート)
有償ボランティア
(仕事で忙し)

子ども預り
送り迎え
6000/時間
那覇市ファミリー
2516件 (全体)
うち内 287件 (ひとり親)
794は母子
9287件 (利用状況)
うち内 1037件 (ひとり親)
サポート 69件
948枚 (発行)
うち526枚使用

母子・父子支援
H24 ~
生活支援・就労支援
民間サポートより上げ
生活支援・就労支援
学習支援
自立に向けた総合事業

南中北部
(各20世帯)
82世帯 (H24 ~ 25)
期間1年 (原則)
市町村まで
広げよう

自分の
意欲

⑧ 黒島美奈子

20年と大きく
改善していない
出産おて仕事めんどい
養育費
保育園入れない
子育ての公的支援
があまりに少ない
有史以来
親だけで育ててきた
近代化 → 父親が働き出す
残った母親が子育て
制度が家族単位

戦後
変わってない

110年前にできた
民法がそのま
残ったまま

⑨ シングルマザー

孤立
社会から
ホソキ
国レベル
の問題は
一人一人
の問題
個人で
生き抜く
(一人の問題)

今の社会
の今の
資源
で考えて
いく
それが
制度
になって
いる
一人一人
が考える
ことが
必要

本当は必要なのに
届いてないのは
キケンな
考え方
弱い人を
たたく
という悪循環を
断つために
構造的な
問題
を
選別しよう
と
な
り
て
い
く
価値判断
を
し
な
い
で
話
を
き
く
て
大
事

世間の目が
キビしい中
「自立促進」
と
い
う
こ
と
を
き
き
ま
い
て
い
く
シングルマザー
の
居
る
居
る
場所

